

○議長（滝内久生君） 次は、質問順位3番、1つ、災害備蓄品の備蓄状況について、2つ、男性用個室トイレ内のサンタリーボックス設置について。

以上2件について、3番 鈴木 孝君。

〔3番 鈴木 孝君登壇〕

○3番（鈴木 孝君） 公明の鈴木 孝です。議長の通告に従い、順次質問をさせていただきます。

最初に、下田市における災害備蓄品の備蓄状況について伺います。

私は、令和元年6月定例議会での一般質問で、災害備蓄品として、紙おむつ、女性用生理用品、液体ミルクなどの備蓄を進めるように提案をいたしました。

当時、下田市の備蓄品はアルファ米、飲料水、乾パンといった最低限ものだけであったため、災害時の備えとしては不十分と判断して、質問、提案をいたしました。

定例議会終了後、防災安全課長から「すぐに液体ミルクは備蓄するようにします」との回答がありましたが、紙おむつ、女性用生理用品は、すぐには難しいとの回答でした。その後、静岡県地震・津波対策減災交付金を使用して、紙おむつ、生理用品を災害備蓄品に加えられ、私も喜び、安心をいたしました。

ただ、このような災害備蓄品をどこに保管して、災害時に被災者にどのように届けられるのかが課題として残っていると思われまます。

令和3年度予算の決算委員会での質疑で私は、生理用品、紙おむつ、液体ミルクなどの災害備蓄品が市内のどこに備蓄されているのかを質問したところ、備蓄する場所の確保がまだできていないとの理由で市役所、または白浜に保管してあるとの回答でありました。

災害の中でも津波の浸水を想定した場合、災害備蓄品は、浸水域外の避難場所に備蓄しておく必要があります。特に子供用おむつ、液体ミルクは、認定こども園、下田保育所の園児の避難場所である下田幼稚園に備蓄しておく必要があると思います。

また、下田市が備蓄している明治の液体ミルクの賞味期限は発売当時1年でしたが、2021年4月製造分より18か月になっております。賞味期限が近づいたものは乳幼児のいる家庭に配り試飲していただき、災害時に戸惑うことのないようにしていくことが大切だと思われまます。また、災害時を想定して、液体ミルクを使うに当たっての問題点も洗い出しておく必要があると思います。

そこで、質問をいたします。

1. 決算委員会の後、備蓄する場所の問題をどのように解決して、保管場所、備蓄品の種

類、備蓄品の数量がどのようになっているのかを伺います。

2. 賞味期限の近づいた液体ミルクはどのように配布しているのか。試飲した感想、問題点、問題があれば、どのように問題解決していくのかを伺います。

次に、下田市公共施設への男性用サニタリーボックスの設置について伺います。

今、日本は高齢化社会を迎えており、加齢の影響により尿漏れに苦慮している方が増えており、2013年には成人用失禁対策商品の売上げが、乳幼児用おむつの売上げを既に上回っていると聞いております。

また、男性に多い病気である膀胱がん、前立腺がんの手術を受けた影響で、尿をコントロールすることが難しくなり、尿とりパッドをつける方も年々増加しております。

しかし、男性トイレの個室にはサニタリーボックス（汚物入れ）の設置がほとんどされていないため、ビニール等に包んで持ち帰る、どこかごみ箱があるところまで行って捨てるなど、不自由な思いをしている方が多いのが現状であります。

尿とりパッドは生理用品に比べサイズも大きいため、尿とりパッドをかばんやリュックサックに忍ばせておくのも気を遣いますし、普通のごみ箱に捨てるのも衛生的に適切とは思えません。また、まれにトイレに流してしまう方がいて、トイレを詰まらせてしまうという事例もあるようです。

この問題は2021年6月、埼玉県在住の日本骨髄バンク評議員、大谷貴子さんが取り上げたことをきっかけになり広がってきました。大谷貴子さんの話を聞いて、埼玉県議会議員が県議会で訴え、埼玉県の県有施設の男性用トイレにサニタリーボックスの設置が広がり、今では、全国自治体に広がりつつあります。

静岡県でも県有施設をはじめ、藤枝市、磐田市などの各自治体でも設置が広がっております。東伊豆町では男子トイレの個室にごみ箱が設置済みであったために「尿トリパッドはこれの中に捨ててください」という旨のステッカーを貼って対応が始められているようであります。

また、身体上の性別と心の性別が異なるトランスジェンダーの方への配慮としても必要と考えられます。トランスジェンダーの女性は、体の構造が女性であっても心が男性のため、男性トイレを使用することもあります。しかし、身体的特徴が女性のため、生理用品をトイレで廃棄したい場合があるためです。

サニタリーボックスを使用する身にならないと分かりにくい面もありますが、少しずつでも市の公共施設への設置を進める必要があると思います。

下田市公共施設における男性用個室トイレ内のサンタリーボックスの設置状況を伺いたいと思います。

ごみ箱で代用しているトイレがあれば、その点も含め教えていただきたいと思います。

2番目として、設置を進めるに当たっての下田市の考えをお聞かせください。

以上で、趣旨質問を終わります。

○議長（滝内久生君） ここで会議時間を延長します。

当局の答弁を求めます。

○議長（滝内久生君） 防災安全課長。

○防災安全課長（佐々木豊仁君） 私のほうからは、災害備蓄品の状況と賞味期限の近づいた乳児用液体ミルクについてお答えいたします。

災害用備蓄品として生理用品、おむつ等を旧白浜幼稚園、乳児用液体ミルクを旧白浜幼稚園と市役所に保管しておりましたが、決算特別委員会での指摘を受け、毎年10月に実施している備蓄食料入替え作業に伴い、各地区の避難所に分散して保管し、避難者へ提供するための体制を構築しております。

生理用品につきましては、備蓄数1万6,840枚のうち、敷根公園に7,360枚、大賀茂小学校、稲生沢小学校、稲梓小学校、旧下田東中学校、旧白浜幼稚園に1,896枚ずつ保管しております。大人用おむつにつきましては、備蓄数560枚のうち、敷根公園に204枚、稲生沢小学校、旧白浜幼稚園に178枚ずつ保管しております。子供用おむつにつきましては、現在、備蓄しておりませんので、大人用おむつの不足分も含め、計画的に購入し、各地区の避難所に保管するよう努めてまいります。

乳児用液体ミルクにつきましては、備蓄数480本のうち、稲生沢小学校に96本、大賀茂小学校、稲梓小学校、旧下田東中学校、旧白浜幼稚園に48本ずつ、乳幼児等が登園している認定こども園に144本、下田保育所の避難場所である下田幼稚園に48本、保管したところでございます。

賞味期限の近づいた乳児用液体ミルクにつきましては、地域子育て支援センターを利用している保護者への配布や、小中学校、保育所等での給食に利用しております。

試飲した感想等につきましては、地域子育て支援センター等で実施する防災講座や離乳食教室において乳児用液体ミルクを紹介するとともに、保護者への配布の際に試飲に関するアンケートを実施し、課題の洗い出しを行ってまいります。

また、乳児用液体ミルクの使用に当たっては、吸い口のついたものや使い捨て哺乳瓶も必

要と考えておりますので、今後、備蓄に努めるとともに、避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組を進めてまいります。

私のほうからは以上でございます。

○議長（滝内久生君） 財務課長。

○財務課長（日吉由起美君） 2番目の御質問で、下田市公共施設への男性用サニタリーボックスの設置についてということで、公共施設全般にわたる御質問でございますので、財務課で取りまとめてお答えをさせていただきます。

公共施設の男性用個室トイレ内のサニタリーボックスの設置につきましては、市においても積極的な取組を行うこととして公共施設所管課へ設置依頼をしているところでございます。

現時点では、市の管理する公衆用トイレの男性用個室3か所、それから、障害者用及び多目的トイレにおきましては、市役所、総合福祉会館や市民文化会館のほか、公衆トイレなど合わせまして15か所に設置済みでございますが、未設置の箇所につきましても、年度内に設置できるように進めてまいります。

高齢者や療養中の方の目線で考え、暮らしやすい環境整備を推進していくことは、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために、行政として必要な取組と考えておりますので、今後も進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 3番 鈴木 孝君。

○3番（鈴木 孝君） 分かりました。子供用のおむつがまだ備蓄されていないということで、備蓄される方向で向かっているということを知りまして、大変うれしく思っております。決算委員会終了後も、いろいろなところに配備していただきましてありがとうございます。

液体ミルクなんですけれども、まだ賞味期限が近づいたものを本当に、どのくらい使っているのかなというのが、まだ未知数かなという感じがいたします。子供が生まれて大体、どうでしょう、1年とちょっとでミルクを飲むことがなくなってしまうので、なかなか使おうかなと思ってたら、もうミルクが必要じゃなくなったりしてしまいます。また第2子とか生まれてくれば、また違うんですけれども、例えばレジャーのときとか、いろんなときに活用されるということも聞いておりますので、給食等に使ってしまうのもいいんですけれども、無駄にはなっていないんですけれども、なるべく実際に使っていて、実際に、本当に水がないときにはどうなのかなとか、吸い口がないとどうなのかなとか、水はあるけれども、水を温めるものがないと、水でミルクを溶いて飲むのかなと。うまいかな

いんだったら、やっぱり液体ミルクが必要なんだとか。

また、液体ミルクも子供によっては、もしかしたら好き嫌いで飲まないかもしれないし、温度が低いと飲まない赤ちゃんもいるんじゃないかなと思うんですよ。それも個人個人によっても違うということになりますね。そして、自分の子供が液体ミルクだとちょっと無理だとなれば、やっぱり粉ミルクかなと。

備蓄していくものも、もしかしたら液体ミルクじゃなくて、粉ミルクのほうを備蓄しておいて、それで温めるガスの温度とかそういうものがもしかしたら、あったほうがむしろいいのかなとか、いろいろやってみないと分からないところもありますので、なるべく実際に使ってもらえるようなことをしていただければ、何か液体ミルクがあれば安心というわけでもなく、違う方向性も見えてくるかもしれませんので、その辺も、どうにか手に取ってもらって、どうにか使ってもらって意見を伺って、その後の備蓄に参考にさせていただければと思います。

あと、サニタリーボックスですけれども、思ったよりいろいろなところに、もう下田市では配備されているということが分かりました。ただ、設置されていないところがまだまだあるということで、ただ、僕もいろいろ市内の公衆トイレとか、この一般質問をする上で、いろいろ見に行ったりしたんですけれども、その大きさというものがね、サニタリーボックスの大きさが結構重要だと思うんです。女性用と同じぐらいの大きさだと、ちっちゃ過ぎるし、もうちょっと大きければいいかなとは思いますが、公衆トイレによっては、そのまま成人用のおむつを捨てたりすると、かなりすぐにいっぱいになってしまうので、どれだけ清掃の方が頻繁に見てくれるかということも含めて、大きさも決めなければならないですね。大きければいいかとなると、大き過ぎて何でも入れてくれというと、ごみとか何でも捨てちゃうということがあって、それがいいか悪いかという話はちょっと別なんですけれども、その大きさというものは、今、設置している状況で考えなければいけないと思うんですね。

1点だけ質問させていただきますけれども、今、設置しているところで問題点とか、何かいろいろありましたら、教えていただきたいと思います。

○議長（滝内久生君） 財務課長。

○財務課長（日吉由起美君） 設置していて問題というのは、まだ詳細には把握してないんですけれども、そもそも今、公衆トイレに10か所、多目的トイレに設置したという、その前提がやはりそういうものをごみ箱に捨てたりとか、そういうこともあったということで、やっ

ぱり不衛生であるとか、観光の公衆トイレとかにあると、という部分の中でサンタリーボックスを置いたということがあったようです。

ですので、清掃の面も含めまして、それがもうたまっていると、また逆に悪い面というのが出てきてしまいますので、そういうものとか、あと表示ですね。分かりやすい表示とかが、されているかどうかというところにつきましては、今、御意見もいただきましたので、再度確認していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（滝内久生君） 市長。

○市長（松木正一郎君） 日本は今、急速に高齢化が進んでいるわけで、鈴木議員御指摘のとおり、子供用だとばかり思っていた紙おむつが私たちも、そのうちにお世話になる可能性が十分あるなど。今回の御質問である意味、目を開けさせていただいたと、こういうふうに感じています。貴重な御提案ありがとうございます。

ウィズウイルスの社会は、これからも続くであろうというふうに言われています。特に唾液よりも汚物のほうが、伝播力が強いというふうなことをある方面の専門家から聞いたことがございます。

今、コロナ社会でリスクの高い現場で頑張っている人への敬意や応援というのが、去年辺りから強く言われるようになって、一番多く言われるのは医療従事者、あるいは介護の現場ということになりますが、実は、ごみ処理の現場、私どもでいうと敷根の、あのごみ焼却場で働いている職員たち。この人たちは、真夏に汗びっしょりになってですね、マスクをした上で手袋して、それで炎天下で頑張ってくれているわけです。こういう人たちのことを僕ら忘れてはいけないなと常々思うんですね。

ちょっとこれ、話が飛ぶんですよ。この使用済みの大人のおむつ、子供のおむつというのは燃やすしかないんですよ、実は。これ、リサイクルをしようと言ってるんですけど汚物なので、全然リサイクル率が高くないんですけれども、政府が必死になって今考えているんですけど、ウィズウイルスだから余計、焼き切るしかないという、そういう感じなんです。

ごみ焼却に、ちょっとこれを引用させていただくのは、ちょっと恐縮なんですけど、実は、そういう面もあるということと、それから、その現場で働いている方々への敬意とか、そういうこともですね、皆さんも広く、例えば、このYouTubeビデオを見ている高校生とか、大学生とかそういう人たちにですね、改めてそういう思いを持つようにしていただければというふうに思いました。今回の鈴木議員のこの質問によって、私は、ひよっとすると、

これが全国の人たちに伝わるかなというふうに思ったところです。言ってみれば私どもの職員である、任期付きかもしれませんが、その職員に対する敬意を思い起こさせてくださった質問として、感謝申し上げます。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 3番 鈴木 孝君。

○3番（鈴木 孝君） 市長、ありがとうございます。

このサニタリーボックスの大きさも、これから先よく考えていただいて、その処理をしていただく方に、じゃ、お金を払えばいいかなって、そういう問題じゃないと思いますね。どうやったら簡単に処理ができるかとか、負担がかからないかというところなんですね。

小さい女性用のものが多目的トイレにあったときに、無理やりねじ込んでいる例があったりして、そうなるともう、これを片づけるのは大変だなと思ってしまうので、やっぱりもうちょっと大きければ少しはまとめやすいとか、いろいろなことがあると思いますので、そこはいろいろ問題点を洗い出して、場所によっても大きさが違ってくると思いますので、一遍にやってね、どんどんやればいいんですけども、どんどんやって問題点が後から出てくるということがありますので、十分に清掃してくれる方とも話し合いをして問題点を見つけて、大きさ、種類とか設置場所なども、いろいろと検討して進めていただきたいと思います。

以上でございます。終わります。

○議長（滝内久生君） これをもって、3番 鈴木 孝君の一般質問を終わります。